

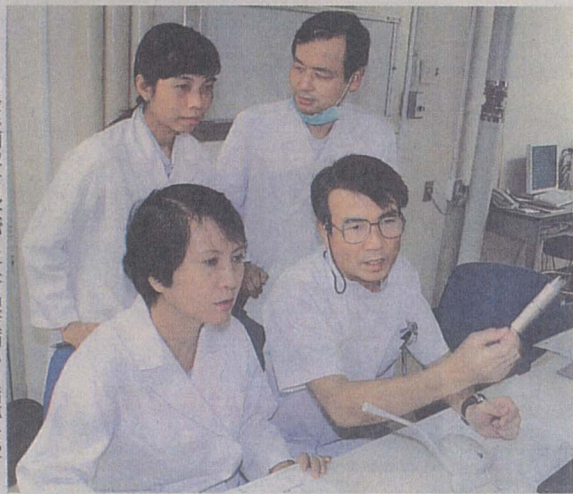
母国思い「成長したい」

ミャンマー2医師 岡山大で研修

最新の放射線医療技術を学ぶため、ミャンマーの女性医師2人が、岡山市鹿田の岡山大学付属病院で研修に励んでいる。母国の情勢を気に掛けながらも「医師として成長して帰りたい」と意欲を燃やす。

(教蓮孝匡)

デモ後の情勢心配



CTの撮影画像を見ながら放射線技師から指導を受けるテルシーさん(手前左)とニユンさん(奥左)

首都にあるネビドー総合病院の放射線科医ノウ・テルシー(50)さんとニ・パン・ニユンさん(40)。九月三十日に来日した。岡山大学付属病院の金沢右教授(51)の指導で、コンピューター断層撮影装置(CT)や磁気共鳴画像装置(MRI)の撮影画像の解析を学んでいる。「レベルの高い指導が受けられ日々充実している」とテルシーさん。金沢教授は「朝の勉強会に出席するなど二人とも熱心。多くの症例を経験してほしい」と話す。

来日直前、旧首都のヤ

ンゴンで軍事政権がデモ隊を武力鎮圧した。国際問題に発展した鎮圧に、沈痛な表情を見せるものの、二人とも口は重い。ヤンゴン出身のニユンさ

んは「大変驚いたが今は研修に集中している。力をつけ、帰国後に多くの人を診ることが私たちの仕事」と力を込める。二人は岡山大とミャン

マー保健省医学研究局との大学間協定に基づく派遣。過去約十人のミャンマー人研修生が岡大で学んできた。住居提供などで滞在中の生活を支援する岡山市の特定非営利活動法人(NPO法人)「日本・ミャンマー医療人育成支援協会」の岡田茂理事長(69)は「日本での人脈も広げて任事に役立ててほしい」と願う。

二人は十月十日に帰国予定。ニユンさんは支えてくれる人のためにも残りの期間も頑張る。テルシーさんは「日本人医師のきびきびした働きぶりも見習いたい」と張

り切る。